

眺望

PROSPECTS



熊本市経済観光局長 村上 和美

訪れる人が、暮らす人と共に上質な時を創るまち

好天に恵まれた今年のお正月。長期休暇がとりやすい暦であったことから、帰省客や観光客も多く、その賑わいで熊本の新年に華をそえていただいた。

私も、元日に初詣をかねて本市の二大観光地である熊本城と水前寺成趣園を訪れたところ、いずれも多くのお客様であふれていた。入園の列に並んでいると、複数の異国の言葉や朗らかな笑い声が聞こえてくる。新しき年を迎える喜びに国境はないなど、自然にこちらも笑顔となった。

それにしても、インバウンドのお客様が増えている。日本観光の魅力が円安でさらにクローズアップされる中、阿蘇くまもと空港へ国際線が相次いで就航したことも大きく寄与しているのであろう。本市としては、この好機に国際観光都市としての足場を固めたいところである。

昨年秋、札幌、東京、京都、福岡といった主要な観光都市を訪れる機会を得た。各都市のインバウンドによる活況は更に際立っている。空港や駅といった交通拠点や観光施設はもちろん、街の裏通りまで、どこを歩いても海外からのお客様であふれていて、2024年の訪日旅行者数が、過去最高の3,686万人超となったことにもうなずける。オーバーツーリズムへの懸念の声はあるものの、これだけ日本を訪問する方々がいるのだから、是非、熊本にも来ていただきたい。熊本の魅力を知って、楽しんでほしい、笑顔になってほしいという欲求に駆られてしまう。

では、海外では無名に近い日本の地方都市、熊本を訪れていただくため、売りだすべき魅力は何か。色々なご意見はあるであろうが、私からの提案は、城下町として栄えてきた歴史と文化を身近に感じながら、清冽な地下水に育まれた食や自然を、暮らしている人と同じように体感する、日本の日常を楽しむ観光である。そのためには、是非お泊りいただいて、手ぶらでゆっくり散策しながら街の魅力を堪能していただきたい。最大のエッセンスは、熊本の人々との交流と温かいおもてなしである。

そうした中、インバウンドのみならず全てのお客様のための受け入れ環境整備として、移動の円滑化や、快適で安心・安全な滞在環境の構築などが急務となっている。

折しも、熊本市議会の令和7年第1回定例会に宿泊税条例案を上程予定である。順調にいけば、令和8年7月から宿泊税が導入され、試算では税収が約7億円となる見込み。この財源を有効に活用して、本市を訪問してくださる皆様の満足度を向上させ、リピーターとなっていただいたり、口コミを広げていただくための環境整備に力を入れていきたい。

熊本市観光マーケティング戦略に掲げる目指すまちの姿、「訪れる人が、暮らす人と共に上質な時を創るまち くまもと」の実現に向けて。